

# 9月15日のウクライナ情報

安齋育郎

## ①特別軍事作戦 9月10日の概要(露国防省、2024年9月10日)

ロシア国防省は、特別軍事作戦の進捗状況に関する日報を発表した。スプートニクが最も重要な項目をまとめた。

ロシア軍はドネツク人民共和国のクラスノゴロフカ、ガリツィノフカ、ヴォジャノエ、グリゴロフカの4村を解放した。

ロシアの対空防衛システムは過去24時間でウクライナのドローン175機を迎撃した。

ウクライナ軍は過去24時間で最多で2175人の兵士を失った。

<https://sputniknews.jp/20240910/910-19072153.html>

## ②露領奥深くへの攻撃許可は、前から決まっていた=ラブロフ外相(2024年9月12日)

ロシアのセルゲイ・ラブロフ外相は12日、西側諸国が供与した兵器による露領奥深くへの攻撃許可をめぐる議論についてコメントした。

「西側兵器による露領奥深くへの攻撃をウクライナに許可することは、かなり前に決まっていたと信じて疑わない。今彼らは、それを公の場でより『エレガント』なものにしようとしているだけだ」

これに先立ち、米国のブリンケン国務長官と英国のラミー外相はウクライナを訪問。英などが開発したミサイル「ストームシャドウ」による露領攻撃許可についても協議したとみられる。だが、11日時点で英首相官邸は、許可は出していないとの従来の立場を改めて示している。

一方、英政府はエスカレーションを避けるため、公表せずウクライナへ許可を出すとの一部報道もある。その場合、攻撃できるのは300キロ以内に限定される可能性があるという。



[https://sputniknews.jp/20240912/19079533.html?rcmd\\_alg=collaboration2](https://sputniknews.jp/20240912/19079533.html?rcmd_alg=collaboration2)

## ③英外相がウクライナを訪問、百年の支援を約束(2024年9月12日)

ウクライナを訪問した英国のラミー外相は「百年のパートナーシップ」を約束した。

ラミー外相はブリンケン国務長官とウクライナを訪問し、現地当局の高官らと協議した。協議後に行われた記者会見によると、双方は軍事支援について協議したとのこと。外相によると、支援では対ロシア制裁、人道的ニーズ、エネルギー問題、強力な同盟関係、及び英国側の義務についても詳細に話し

合ったとのこと。さらに 2024 年の冬だけでなく、「百年のパートナーシップ」も議論したという。

また、2024 年末までに 6 億ポンド(約 1115 億円)を拠出するほか、年末までにさらに数百発の防空ミサイル、数万発の砲弾、追加の装甲車両を供与するとした。

そのほか、ロシア領に対する長距離攻撃を巡る議論の結果をスターマー首相に伝えるとも述べた。なお、英首相官邸は 11 日、ロシアに対するウクライナの長距離攻撃を引き続き許可しない方針を改めて示した。



<https://sputniknews.jp/20240912/19078808.html>

#### ④チェルノブイリに匹敵する核惨事のリスク＝ラブロフ外相(2024 年 9 月 12 日)

ロシアのセルゲイ・ラブロフ外相は 12 日、ウクライナ軍による露国内の原発への攻撃について言及した。

「状況は深刻だ。西側は軽く見ているが、彼らの傀儡(ウクライナ政権)の行動は、最終的にはチェルノブイリに匹敵する大惨事を引き起こす恐れがある。そうなれば主に被害を受けるのは欧州だ」

ウクライナ軍は 8 月以降、クルスク原発への攻撃を強化。9 日にはドローンの破片が落下したことで設備が損傷し、一時電源供給が途絶えた。また、停止中のザポロジエ原発でも 11 日、冷却塔にドローンが直撃し火災が起きた。

同月末にクルスク原発を視察した国際原子力機関(IAEA)のラファエル・グロッシ事務局長は、「原子力事故のリスクが生じている」と警鐘を鳴らしている。



<https://sputniknews.jp/20240912/19080043.html?rcmd alg=collaboration2>

#### ⑤ウクライナ・中東情勢、批判ばかりで議論深まらず 米大統領選討論会(朝日新聞、2024 年 9 月 11 日)

9月10日に開かれた米大統領選の討論会では、民主党のハリス副大統領(59)と共和党のトランプ前大統領(78)が、ウクライナやパレスチナ自治区ガザでの戦闘をめぐっても初めて論戦を繰り広げた。ただ、相手候補への批判が続き、世界で起きる危機に米国がどう対応するかの議論は深まらなかった。

ロシアのウクライナ侵攻をめぐり、トランプ氏は司会者から「ウクライナの勝利を望むか」と問われたが、正面から答えなかった。「戦争を終わらせ、合意に達することが最も米国の国益にかなう」と、早期の停戦の必要性を強調した。

トランプ氏は、自身が大統領であれば侵攻が「起こっていなかった」との持論も改めて展開し、当選した場合には「大統領に就任する前にだって解決してみせる」と述べた。バイデン政権の対応について「弱く、無能だ」とも批判した。

これに対しハリス氏は、トランプ氏がウクライナ侵攻を「24時間以内に終わらせる」と語ってきたことをめぐり、ウクライナを「あきらめるからだろう」と非難。バイデン政権の軍事支援によってウクライナが戦い続けられているとして、支援の意義を強調した。トランプ氏が大統領であったなら、今頃ウクライナの首都キーウはロシアに支配されているだろう、とも述べた。



<https://www.asahi.com/articles/photo/AS20240911002493.html>

## ⑥ロシア、西部クルスク州で反撃開始と主張 占拠された 10 集落を奪還と(BBC, 2024年9月13日)



ロシア西部で川を渡るロシア部隊

ロシア国防省は12日、ウクライナ軍によって占拠されていた、ロシア西部クルスク州の10集落を奪

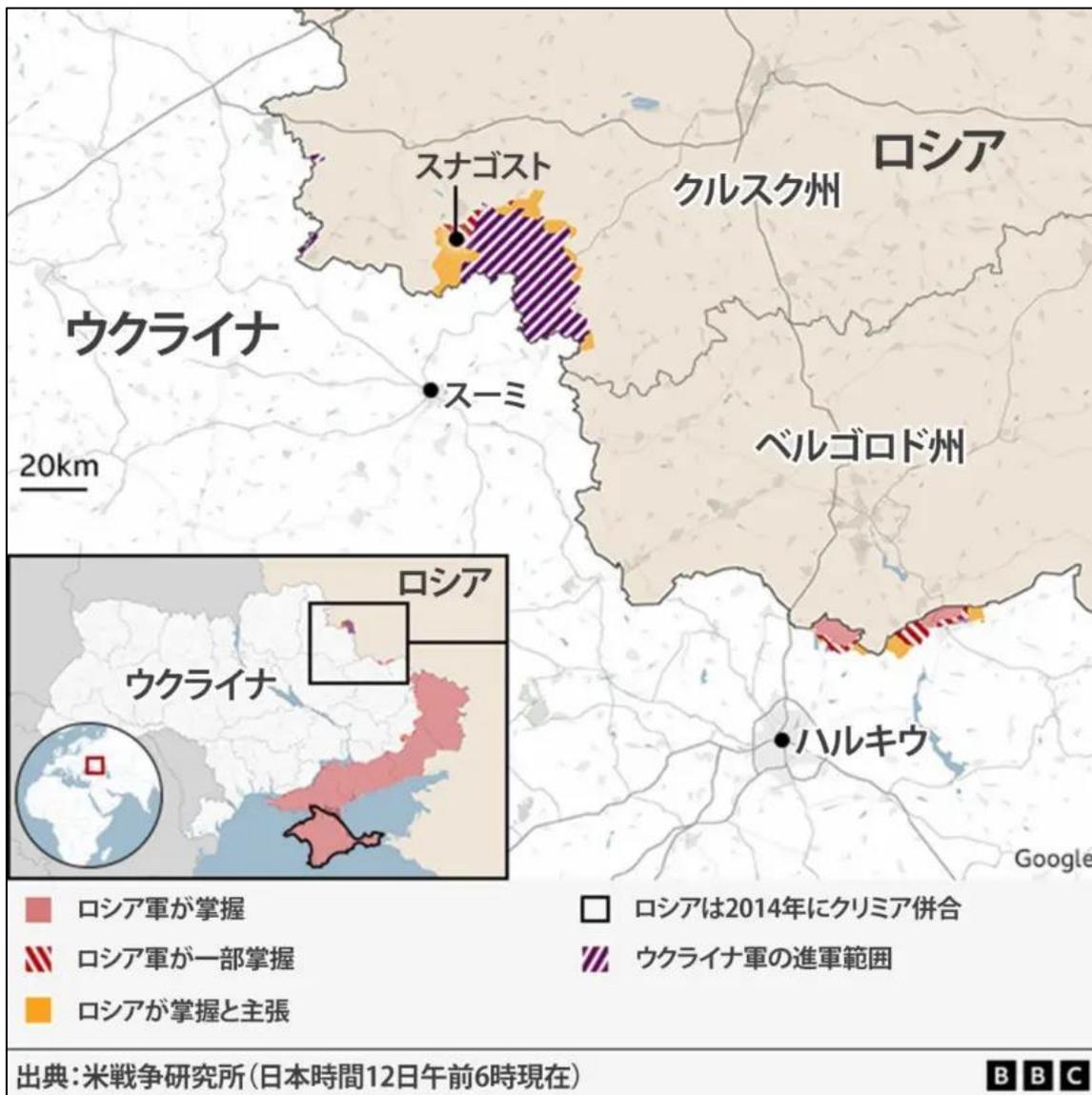
還したと発表した。ウクライナ軍は先月、ロシアの国境地帯に奇襲侵攻していた。

ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領は、ロシアが反転攻勢を開始したと認めた。ただ、「ウクライナの計画どおりだ」とした。

ロシアは、「北の部隊」が2日間かけて、スナゴスト周辺の集落を奪還したと発表した。それらの集落は、ウクライナが先月6日に開始した作戦で占拠した地域の西側に位置する。

反転攻勢について最初に伝えたのは、チェチェン特殊部隊のアプティ・アラウディノフ司令官だった。ウクライナの6個旅団で多数の死傷者が出たとした。

クルスク州にいるウクライナ軍将校はBBCに、ロシア軍の反撃がスジャの西方で始まったと説明。「戦闘は非常に厳しく、現時点では状況は私たちに有利ではない」と話した。



ウクライナによるロシア国内への攻撃は、ウクライナ東部にいるロシア軍を分散させる目的で開始されたとみられている。この攻撃でウクライナは、ロシア領土を最大1300平方キロメートル占拠したとしている。

だがウクライナ東部では、ロシア軍が集落の占拠を続けており、戦略上重要な町ポクロフスクに数キロの地点まで迫っている。ポクロフスクに続く道などでは激しい戦闘が報告されている。

米シンクタンク「戦争研究所」のアナリストは、ロシアの反撃の規模や見通しは不明だとし、いかなる結論もまだ出せないとした。

ウクライナの旅団と関係のあるソーシャルメディアのアカウントは、スナゴスト付近でロシア軍が予期せず攻撃を開始し、ウクライナ軍が対抗していると述べた。

ロシアの軍事専門家アナトリー・マトヴィチュク氏は、ロシアが領土 100 平方キロ以上を奪還しており、「敵の予備兵力、援軍、後方支援物資はもはやクルスク州に到達できない」と、ロシア紙モスコフスキー・コムソモーレツに話した。

ロシアはウクライナによる侵攻で、スジャなどの町や村を簡単に占拠された。しかし、約 1 カ月後にウラジーミル・プーチン大統領は、ウクライナの攻撃について、失敗に終わったと主張。それにとどまらず、ウクライナ東部ドンバス地方の掌握という、ロシアの「主要目的」を助ける結果となったと主張した。

<https://www.bbc.com/japanese/articles/cx292vv2gr3o>

## ⑦越境攻撃のウクライナ軍に正念場か ロシア国防省「10 集落奪還」(朝日新聞、2024 年 9 月 13 日)

ロシア国防省は 12 日、ロシア南西部クルスク州で越境攻撃を続けるウクライナ軍から、過去 2 日間で 10 集落を奪還したと発表した。ロシア軍は戦局の巻き返しに自信を深めている可能性があり、ウクライナ軍がどこまで占領地を維持できるかが焦点となる。

同省の発表では、ロシア軍は主にウクライナ軍の占領地の西側の集落を奪還。東側でも戦闘が行われており、過去 1 日でウクライナ軍に 300 人以上の兵士と 24 台の装甲車両などの損害を与えたとしている。

ウクライナ軍は 8 月 6 日に越境攻撃を開始。ロシア軍は当初、ウクライナ軍の「奇襲」に対応できず、集落を次々と制圧されたが、ロシアメディアによると、空挺(くうてい)部隊などを投入して激しい攻撃を続けている。

一方、ウクライナ軍は占領地に陣地を築いて防御を固めているとみられているが、ロシア側の攻勢を撃退できるかが、占領地をめぐる攻防の正念場となる可能性もある。



<https://www.asahi.com/articles/ASS9D4TB6S9DBQBQ1JQM.html?msocid=31e4148cbd436d63381607a5bc916cf3>

## ⑧ミアシャイマー教授の見解(2024年 9 月 14 日)

※安齋注:わが同志ともいうべきシカゴ大学教授ジョン・ミアシャイマー

ジョン・ミアシャイマーは、権力、戦争、平和、国際関係といったテーマに関して世界で最も影響力があり、物議を醸す思想家の一人です。

ジョン・ミアシャイマー:トランプ氏は結局ウクライナの現状維持に踏み切るだろうと思う。

ウクライナ戦争の行方とアメリカとウクライナの関係の行方を変える唯一のことは、ウクライナが戦場で負けることだと私は思う。

ここで本当に重要なのは戦い自体で何が起こるかだと思うが、トランプが介入してプーチンと合意できるという考えはありそうにないと思う。その主な理由は、プーチンの要求がトランプが容易に受け入れられるものではないからだ。

プーチン大統領が今年 6 月 14 日の演説で、停戦を呼びかけ、ウクライナおよび西側諸国との交渉を開始することに同意する前に、2 つの条件が満たされなければならないと明言したことを覚えておいてほしい。

これらは 2 つの前提条件です。

前提条件の一つは、ロシアが併合した 4 つの州が現在そして永久にロシア領土であることにウクライナと西側諸国が正式に同意することであり、もちろん同じことがクリミアにも当てはまる。

さらに、ウクライナ人とアメリカ人(ここでは西側諸国のことを言っている)は、ウクライナが NATO に加盟できないという事実を受け入れなければならない。

彼らはウクライナが中立国となることを宣言しなければならない。

<https://x.com/i/status/1833720624122060819>



<https://x.com/amatsuda7/status/1833720624122060819?s=09>

## ⑨ネベンジア国連ロシア大使の弁(2024年9月11日)

「キエフの軍事政権がナチスとしての本性を露わにしたことで、米国とその衛星国は盲目状態に陥っています。それは、ナチスの手先やヒトラーの協力者たちを称賛することに現れています。彼らの手によって、何十万人もの罪のないユダヤ人、ポーランド人、ロシア人、ジプシー、ウクライナ人が殺害されました。

ウクライナ兵士たちが多数のナチス・ドイツのシンボル、旗、エンブレムを隠そうともせずにポーズを取っている映像がインターネット上に公開されており、これは誰の目にも明らかです。この恥ずべき問題を認める勇気を持つ者は、西側諸国ではごくわずかしかいません。」

<https://x.com/i/status/1833743972252151874>



<https://x.com/4mYeeFHhA6H1OnF/status/1833743972252151874?s=09>

### ⑩BRICS:自由を求める国々の急進展(2024年9月10日)

BRICS とは何か?どのように機能し、どのようなエコシステムを持ち、加盟プロセスはどのように進むのか?主権を持たない者たちへの急速な関心を理解し、アフリカにとっての同盟の展望を考察するためのビデオです。

<https://youtu.be/tKfL-q560pw>



<https://www.youtube.com/watch?v=tKfL-q560pw>